



天竜川ダム再編事業環境検討委員会 第1回議事要旨（案）

日 時：平成 28 年 5 月 5 日（水） 14:00～ 17:00

場 所：浜松名鉄ホテル（3F 松の間）

出席者：辻本委員長、青木委員、萱場委員、佐藤委員、谷田委員、福濱委員（計6名）

1

・ 検討委員会について

- ・ 今回の議事概要は速やかに公表する。
- ・ 次回以降、原則公開で開催し、公表する。

2

・ 天竜川ダム再編事業の環境検討について

1) 環境の現況分析

- ・ 天竜川の河川環境について、佐久間ダム完成以前からの変化を把握するとともに、最近の傾向（ベクトルの方向）及びその要因について分析する必要があり、そのためには今までのインパクトに対するレスポンスを整理する必要がある。³⁰
- ・ 天竜川の河川環境について、昭和 年 代に遡るといふ視点も必要である。
- ・ 現況として、砂利採取の条件や採取している粒径について整理する必要がある。
- ・ 海岸侵食の要因の現状分析を整理する必要がある。
- ・ 現況として、佐久間ダムがどんなオペレーションをしているのか整理する必要がある。
- ・ 現況として、貯水池の生物環境について整理する必要がある。
- ・ 物理環境については、河口テラスの材料を調べるとか、旧河道沿いの堆積物を調べるなど、昔を調べるという視点も重要であり、別途の研究との連携も大事である。

2) 再編事業で目指すもの

- ・ 天竜川中下流部における望ましい環境について「砂礫河原が広がる河川環境」としているが、目指すべき環境像について、もう少し議論する必要がある。
- ・ 天竜川中下流部において、今後いろいろな事業が想定される中で、再編事業がどういう位置づけなのかをもう少し明確にする必要がある。

3) 環境予測・評価

- ・ 緊急度の高い遠州灘の海岸侵食への対応に関連し、ダムからの排砂が河道を通して、どれだけの時間をかけて海岸まで流れていくのかなど、再編事業による海岸への土砂供給を時間軸で明確にする必要がある。
- ・ レスポンスを評価するには、どれだけの土砂がでてくるかを与えられる必要がある。
- ・ 佐久間ダムに治水機能を持たせることによる流況変化が、土砂動態に及ぼす影響を検討する必要がある。まず、流況変化についてハイドロでの説明が必要である。
- ・ 最近の河川環境の傾向に対して、再編事業がどのように作用するかを明らかにする必要がある。
- ・ 海岸侵食の抑制を目指す場合、例えば、①河口テラスをこれ以上後退させない、②周辺海岸までの侵食を緩和させる、等のシナリオに分けて議論する必要がある。
- ・ 海岸侵食をこれ以上進めないことを目標とする場合、基準とする年を明確にしておく必要がある。
- ・ 再編事業による環境変化に対するミチゲーションとしてだけでなく、環境改善あるいは再生といった視点からも注目種を選定する必要がある。
- ・ 土砂及び流況による物理環境が変化することで、どういう生物が一番うまくレスポンスして、どれを見ていけば一番その状況がモニタリングできるかという視点が必要である。
- ・ 河川環境の評価については、個々の生物の生息状況だけでなく、当該生物の生息条件を整理した上で、それらの組み合わせによって行うべきである。
- ・ 付着藻類について、エサとしての価値が極めて高いので、どう評価するかといった検討項目を入れる必要がある。

4) その他

- ・ 調査データは、データ集としてまとめるのが良い。

以上